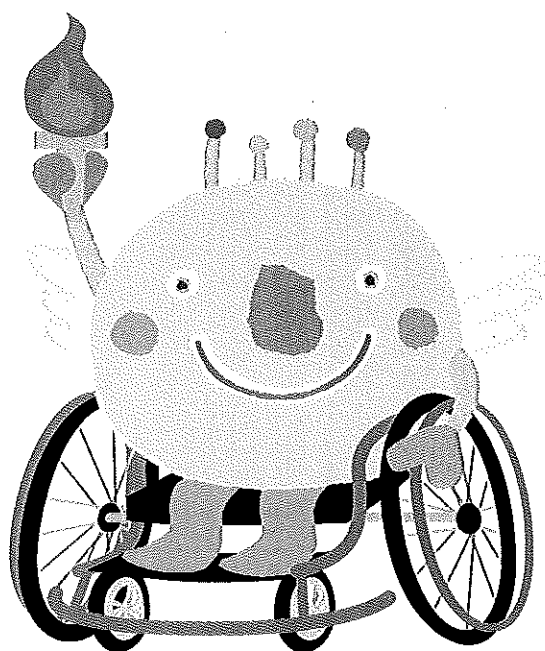


第19回全国障害者スポーツ大会
茨城県準備委員会

第4回委員会



マスコットキャラクター
「いばラッキー」

第19回全国障害者スポーツ大会

いきいき茨城ゆめ大会 2019

翔べ 羽ばたけ そして未来へ

平成28年2月16日(火)

茨城県庁舎 11階

共用会議室 1102・1103

第19回全国障害者スポーツ大会 茨城県準備委員会第4回委員会 資料目次

- 次第 (別紙)
- 出席者名簿 (別紙)
- 配席図 (別紙)

<報告事項>

- 報告事項1 第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」
視察結果について 1
- 報告事項2 第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」
茨城県選手団結果報告について 8

<審議事項>

- 第1号議案 第19回全国障害者スポーツ大会会場地市町村(案)
について 9
- 第2号議案 第19回全国障害者スポーツ大会競技役員等養成基本
方針(案)について 10
- 第3号議案 第19回全国障害者スポーツ大会式典基本方針(案)
について 14
- 第4号議案 第19回全国障害者スポーツ大会宿泊基本方針(案)
について 15
- 第5号議案 第19回全国障害者スポーツ大会輸送・交通基本方針
(案)について 16
- 第6号議案 第19回全国障害者スポーツ大会ボランティア養成基
本方針(案)について 17
- 第7号議案 第19回全国障害者スポーツ大会イメージソング及び
ダンス(案)について 19

<協議事項>

- 協議事項1 第19回全国障害者スポーツ大会会期(案)について . . . 20
- 協議事項2 第19回全国障害者スポーツ大会オープン競技実施基
本方針(案)について 21

報 告 事 項

第15回全国障害者スポーツ大会

「紀の国わかやま大会」の視察結果について

1 大会の日程

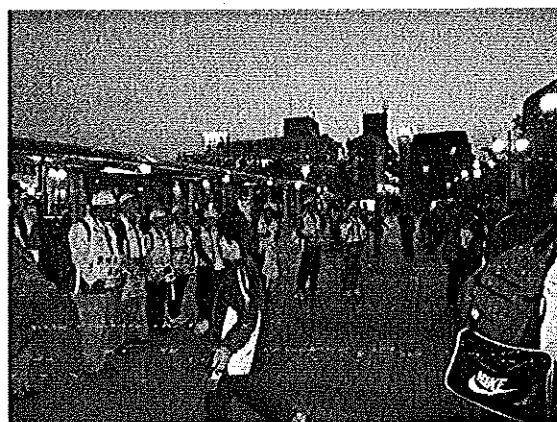
月日(曜)	大会日程	行 事 等
10月22日(木)	選手団来県日	・選手団来県
10月23日(金)	選手団来県日 ・公式練習日	・全国代表者会議 ・監督会議 ・公式練習
10月24日(土)	大会1日目	・開会式 ・競技(※アーチェリー競技のみ公式練習日)
10月25日(日)	大会2日目	・競技
10月26日(月)	大会3日目	・競技 ・閉会式
10月27日(火)	選手団離県日	・選手団離県

2 選手団来県

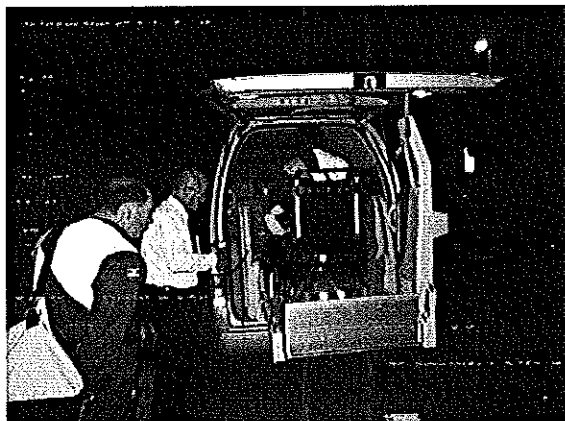
- ・県職員と選手団サポートボランティアが出迎え。
- ・選手にとって選手団サポートボランティアとの交流は、競技出場に匹敵する貴重な体験の一つ。
- ・選手団の誘導や一般の方々の安全確保のため、警備員を配置。



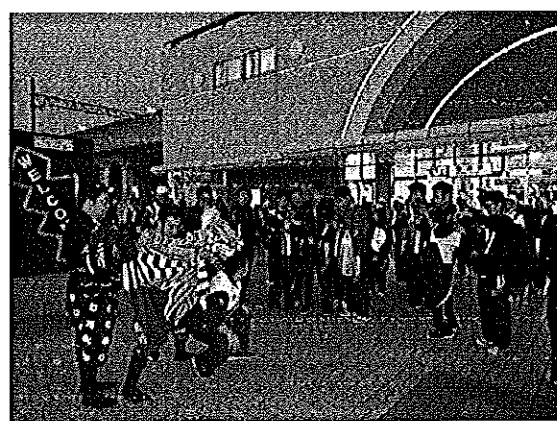
選手団お出迎え(自作応援旗を広げて交流)



選手団お出迎え(対面式)



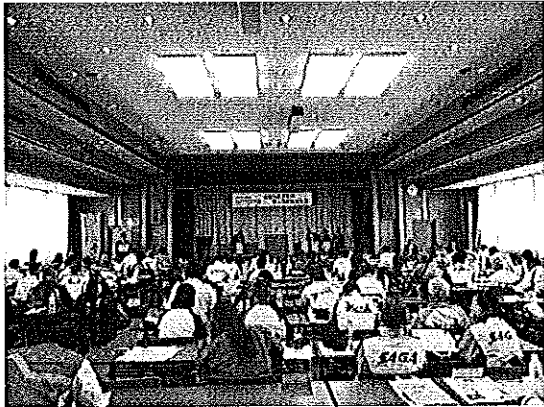
移動支援(リフト車)



選手団サポートボランティアによる歓迎

3 代表者会議

- ・県の運営で和歌山県文化振興会館で開催。時間は15分程度。
- ・日本障がい者スポーツ協会常務理事，文部科学省障害者スポーツ振興室室長の挨拶，和歌山県から大会に関する諸注意等の説明。



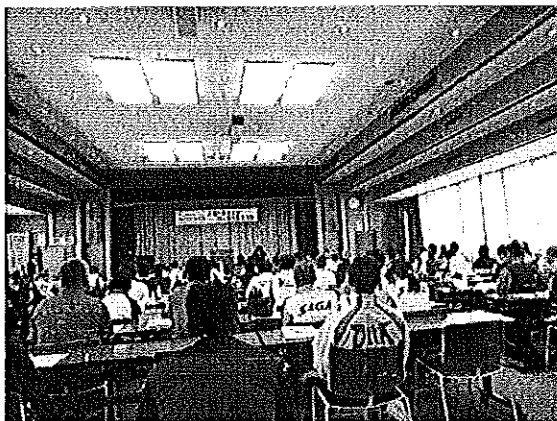
全国代表者会議



全国代表者会議

4 監督会議

- ・日程，競技に関する注意事項等を説明。
- ・質問や要望については，競技団体，県及び市が回答。



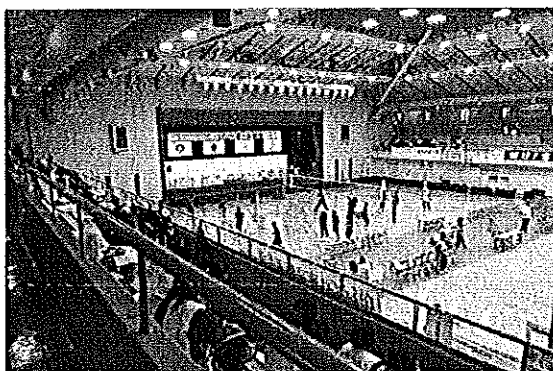
監督会議（陸上競技）



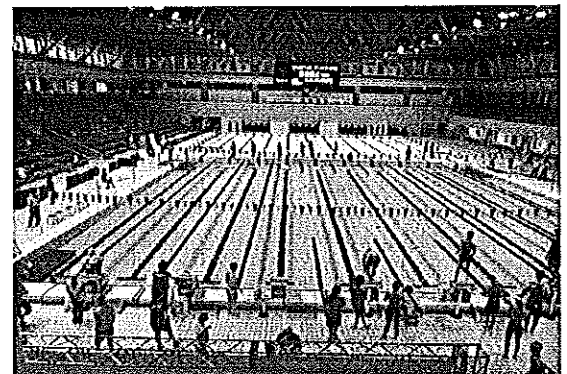
監督会議（陸上競技）

5 公式練習

- ・事前に決められたスケジュールで実施。
- ・開会式の前日に来県する選手団があるため，事前に確認のうえ，練習時間を遅めに設定するなどの調整が必要。



バレーボール会場



水泳会場

6 開会式

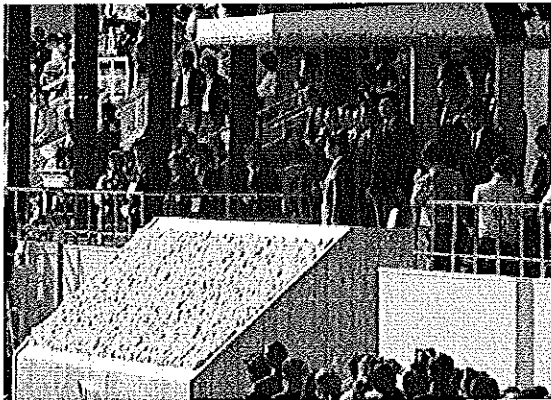
- ・海南駅から会場までは、バスで約30分ほど。駅からのシャトルバスが利用可能。
- ・会場への入場の際にはIDチェックあり。事前に配付されていたIDと写真入りの証明書（運転免許証など）を見せて入場。さらに、開会式会場へ入る際、IDチェックと手荷物検査を実施。
- ・選手団は午前7時すぎから8時50分までに会場に到着。10時の選手入場までは各選手団で行進の練習をするなどして待機。
- ・選手団の入場行進中は、サイドスタンドの和歌山県の中学生が、自作の応援旗や横断幕などを使って、大きな拍手や声援を送って応援。
- ・歓迎演技では、小学校、高等学校、聾学校、特別支援学校の生徒で、和太鼓、創作ダンス、大会イメージソングに合わせたダンスを披露。
- ・きいちゃん広場…和歌山県の「食」や「特産品」、「大会グッズ」などの販売や、様々な情報発信をするPRブースを設置。特設ステージでは、選手団や来場された方々を楽しませる催しを実施。
- ・選手控所と開会式会場の間にはプラスチックボードを敷き詰め、車椅子の利用者への配慮あり。



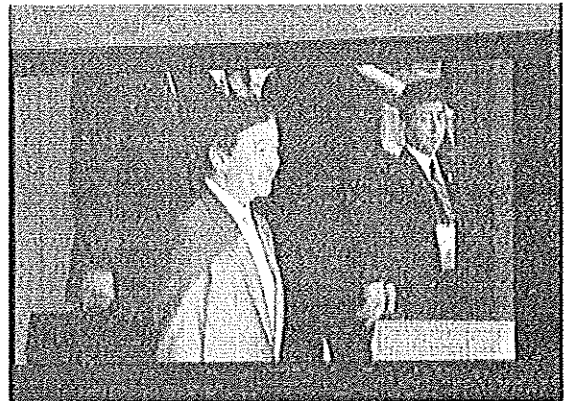
所持品検査（一般）



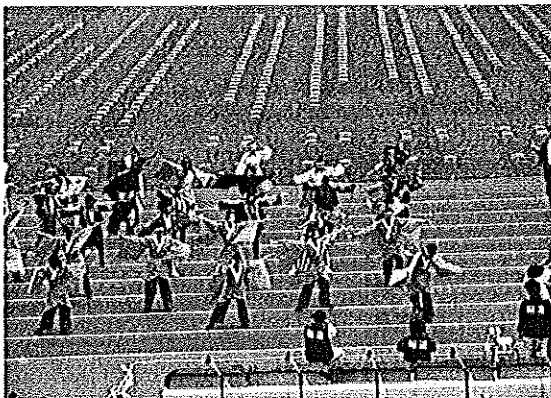
所持品検査（選手）



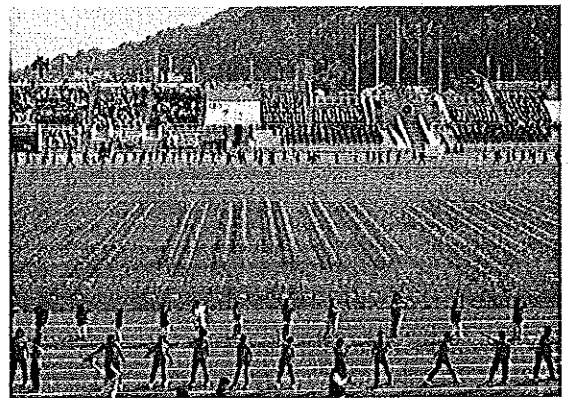
観覧席（ロイヤルボックス）



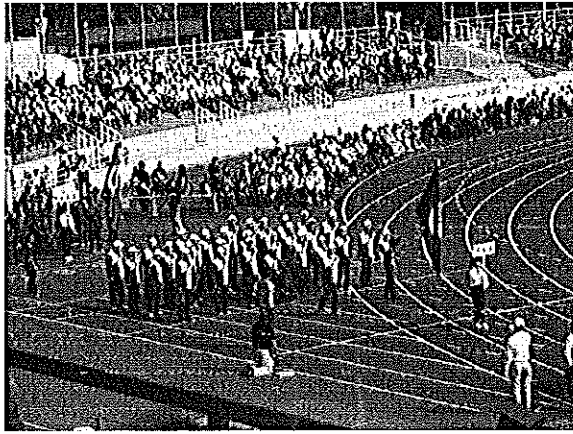
大画面（皇太子ご臨席）



アトラクション



アトラクション



入場行進（本県）



入場行進（開催県）

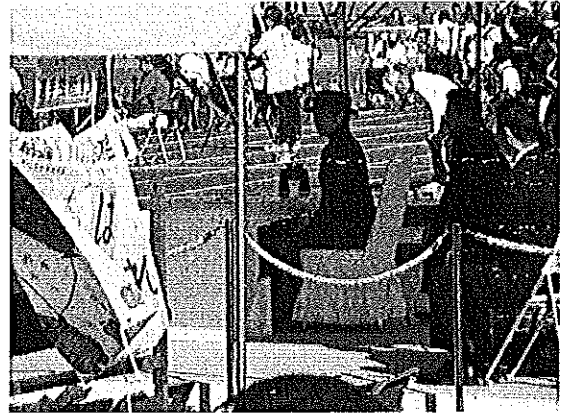
7 競技会場

(1) 行啓

- ・バレーボール(精)会場の田辺市体育センターでは、競技2日目の皇太子殿下競技御観覧に伴い、入場者の制限と金属探知機による厳重なIDチェックを実施。また、ロイヤルボックス側のスタンドには、行啓終了まで観客を入れないようにし、終了後は、スタンドを解放。



バスケットボール会場



アーチェリー会場

(2) 会場設営

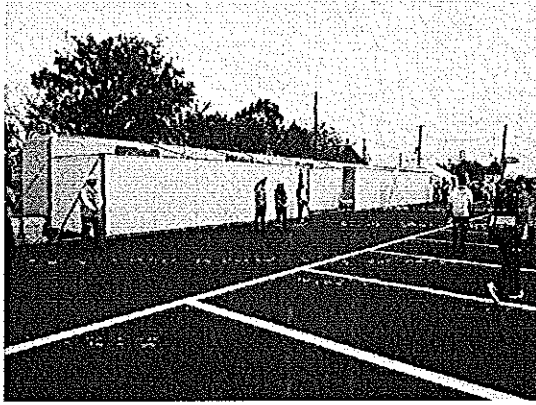
- ・選手や応援の方々が安全に会場で過ごせるよう、段差の解消のためのゴムマットや仮設スロープの設置及び、車椅子利用者等への配慮としてプラスチックボードやベニヤ板を敷設。
- ・選手が移動しやすいように、マットやスロープ等を使って動線を示す。
- ・必要となるトイレ数を確保するため多目的仮設トイレを設置。
- ・きいちゃん広場では、大会グッズだけでなく、ふれあいゲームコーナーなど、おもてなしを実施。



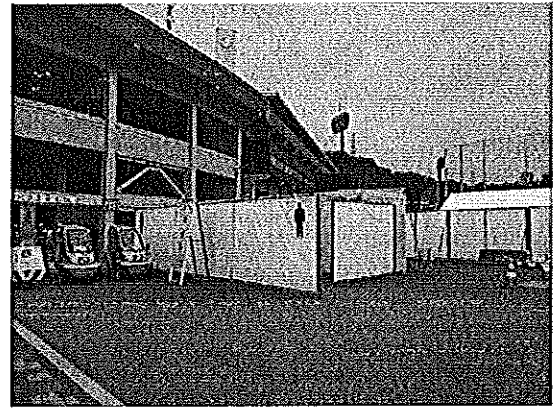
ゴムマット



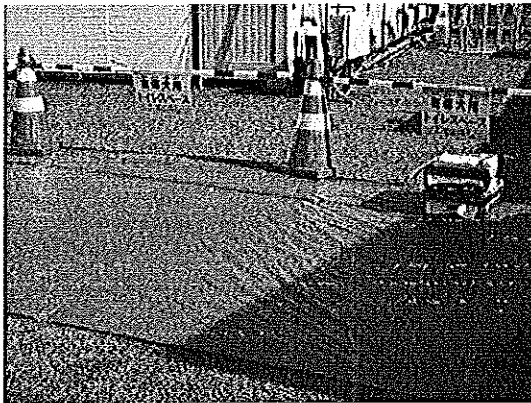
仮設スロープ



仮設トイレ



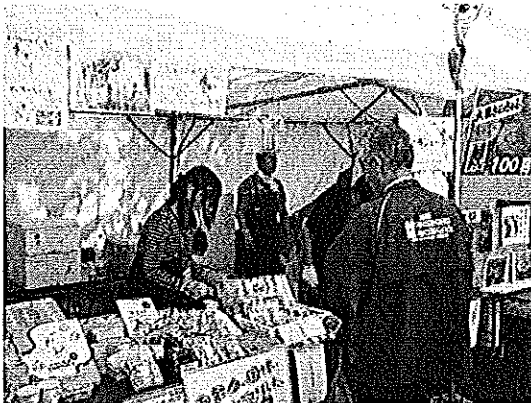
仮設トイレ



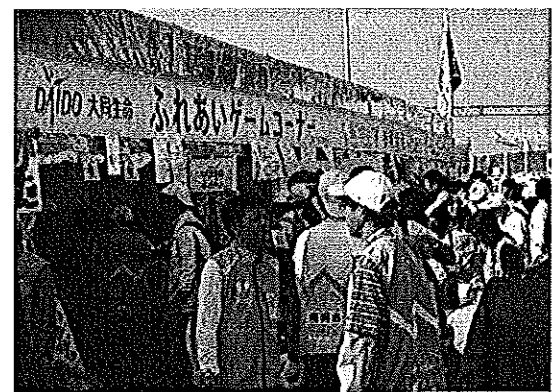
盲導犬用トイレスペース



選手団用車椅子席



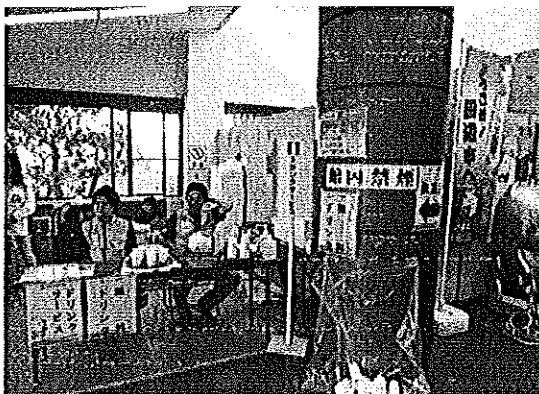
きいちゃん広場（物販）



きいちゃん広場（ふれあいゲームコーナー）

(3) 提供サービス等

・各会場で提供されているサービス



ドリンクサービス



コンディショニングルーム



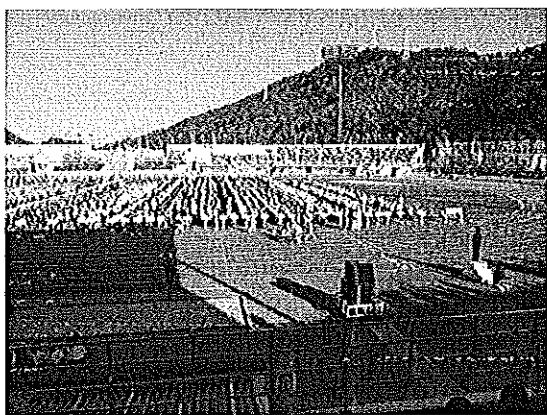
車いす・毛布貸出所



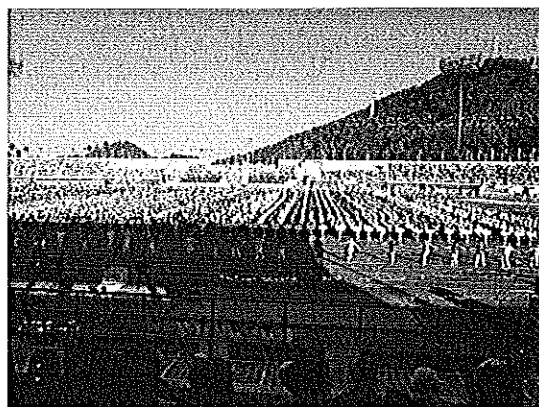
お土産配布

8 閉会式

- ・開会式のような入場行進はなく、午後3時のオープニングプログラム開始までに選手団が競技場に並べられた椅子に座る形で待機。



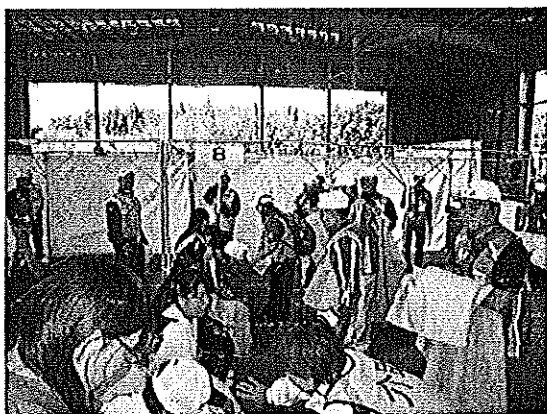
閉会式（選手団）



閉会式（選手団）

9 ボランティア

- ・大会を支えるボランティアの方々。



大会運営ボランティア（表彰準備）



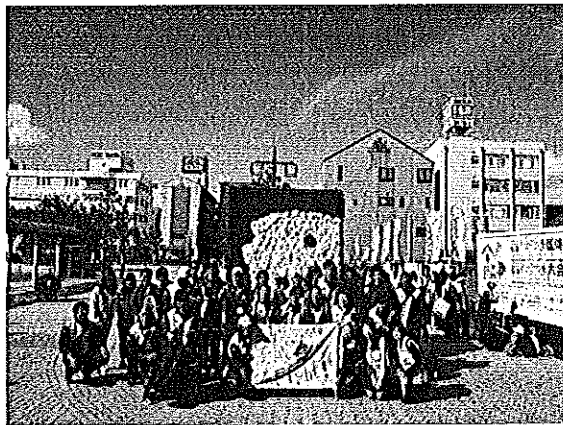
大会運営ボランティア（順位確認）



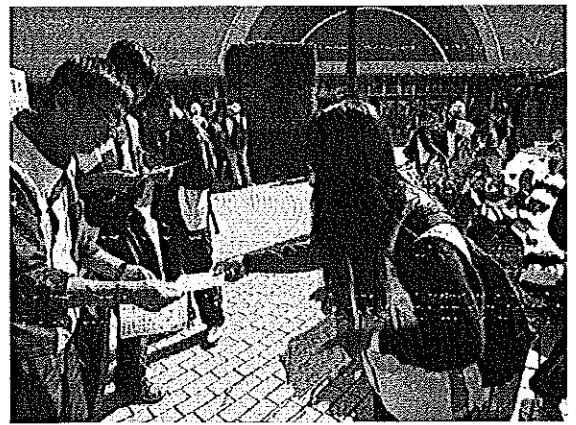
選手団サポートボランティア（選手と会話）



選手団サポートボランティア（移動）



選手団サポートボランティア（記念撮影）



選手団サポートボランティア（海南駅でのお見送り）

第15回全国障害者スポーツ大会

「紀の国わかやま大会」茨城県選手団結果報告について

1 選手団概要

(1) 選手団員数 選手31名 役員33名 合計64名

(2) 団長 鈴木 金一郎 (茨城県手をつなぐ育成会会長)
 副団長 梶山 順司 (茨城県聴覚障害者協会副会長)
 副団長 高塚 和郎 (茨城県保健福祉部障害福祉課長)

(3) 派遣期間 平成27年10月22日(木)～10月27日(火)

(2)競技出場状況及び獲得メダル数(個人競技)

競技種目	出場選手	獲得メダル数			計
		金	銀	銅	
陸上競技	14	10	7	5	22
水泳	4	4		1	5
卓球	5	2	1	2	5
フライング ディスク	5	2	1	2	5
ボウリング	3		2	1	3
合計	31	18	11	11	40

※団体競技については、関東ブロック予選会で優勝できなかった為、和歌山大会には出場していない。

(参考)平成26年度成績 第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」

競技種目	出場選手	獲得メダル数			計
		金	銀	銅	
個人競技	32	10	9	12	31

審 議 事 項

第19回全国障害者スポーツ大会 会場地市町村（案）について

開・閉会式及び競技の会場は、円滑な式典・競技運営や宿泊・輸送等の利便性、選手の負担軽減などを考慮しながら、「いきいき茨城ゆめ国体」で使用される施設等を活用し、障害のある人に配慮した会場とします。

競 技 名	会 場	所在地	
開・閉会式	笠松運動公園陸上競技場	ひたちなか市	
陸上競技（身・知）			
水泳（身・知）	笠松運動公園屋内水泳プール	ひたちなか市	
アーチェリー（身）	荖崎運動公園陸上競技場	つくば市	
卓球（身・知） （サウンドテーブルテニス（身）を含む）	日立市池の川さくらアリーナ	日立市	
フライングディスク（身・知）	ケーズデンキスタジアム水戸	水戸市	
ボウリング（知）	フジ取手ボウル	取手市	
バスケットボール（知）	青柳公園市民体育館	水戸市	
車椅子バスケットボール（身）	サイバーダイナアリーナ （つくばカピオ）	つくば市	
ソフトボール（知）	山吹運動公園運動広場	常陸太田市	
グラウンドソフトボール（身）	白羽スポーツ広場多目的スポーツ広場		
フットベースボール（知）	山吹運動公園運動広場		
バレーボール	（身）	ひたちなか市総合運動公園総合体育館	ひたちなか市
	（知）	かなくぼ総合体育館	結城市
	（精）	松戸体育館	ひたちなか市
サッカー（知）	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場及びスポーツ広場	ひたちなか市	

第19回全国障害者スポーツ大会 競技役員等養成基本方針（案）について

全国から参加する選手が、快適な環境で競技を行えるよう、競技役員等の養成を行うとともに、ユニバーサルデザインに配慮した会場づくりを進めるなど、円滑な競技運営を図ります。

(1) 参加選手団規模(想定)

選手 約3,500人

役員 約2,000人(各都道府県、指定都市役員)

ア 個人競技参加選手数〔()内は延べ選手数〕

競技名	参加選手数	参加種目の内訳
陸上競技(身・知)	1,080人(2,160人)	競走競技(トラック競技) 跳やく競技, 投てき競技
水泳(身・知)	310人(620人)	自由形, 背泳ぎ, 平泳ぎ, バタフライ, リレー, メドレーリレー
アーチェリー(身)	70人(70人)	50m・30mラウンド 30mダブルラウンド
卓球(身・知)〔サウンドテ ブルテニス(身)を含む〕	320人(320人)	卓球, サウンドテーブルテニス
フライングディスク(身・知)	420人(840人)	アキュラシー, ディスタンス
ボウリング(知)	200人(200人)	
合 計	2,400人(4,210人)	

(注) 個人競技の参加申し込みは、「全国障害者スポーツ大会開催基準要綱細則」に定めるところによります。

イ 団体競技参加チーム数及び選手数

競技名	区分	チーム数及び選手数
バスケットボール(知)	男女別	14チーム(12名) 168人
車椅子バスケットボール(身)	男女混合可	7チーム(12名) 84人
ソフトボール(知)	男女混合可	7チーム(15名) 105人
グラウンドソフトボール(身)	男女混合可	7チーム(15名) 105人
フットベースボール(知)	男女混合可	7チーム(15名) 105人
バレーボール(身)	男女別	14チーム(12名) 168人
バレーボール(知)	男女別	14チーム(12名) 168人
バレーボール(精)	男女混合	7チーム(12名) 84人
サッカー(知)	男女混合可	7チーム(16名) 112人
合 計		84チーム 1,099人

(注) 各競技とも、ブロック代表6、地元代表1の7チームを予定しています。

(2) 競技役員等の養成・編成について

円滑な競技運営を図るため、競技運営主管団体等の関係機関の協力を得て、競技役員及び競技補助員を養成・編成します。

ア 競技役員・競技補助員（想定）

競 技 名		競技役員 (人)	競技補助 員 (人)	競技運営主管団体	協力 団体
個人競技 (6競技)	陸上競技(身・知)	300	400	茨城陸上競技協会	高等学校・短期大学・大学・専修学校等
	水泳(身・知)	120	80	茨城県水泳連盟	
	アーチェリー(身)	40	100	茨城県アーチェリー協会	
	卓球(身・知) 〔サウンドテーブルテニス (身)を含む〕	100	40	茨城県卓球連盟	
	フライングディスク(身・知)	100	90	茨城県障害者フライング ディスク協会	
	ボウリング(知)	90	40	茨城県ボウリング連盟	
	小 計	750	750		
団体競技 (7競技)	バスケットボール(知)	100	50	茨城県バスケットボール 協会	
	車椅子バスケットボール(身)	50	50		
	ソフトボール(知)	80	40	茨城県ソフトボール協会	
	グラウンドソフトボール(身)	100	40		
	フットベースボール(知)	70	40		
	バレーボール(身・知・精)	170	270	茨城県バレーボール協会	
	サッカー(知)	90	60	公益財団法人茨城県サッ カー協会	
	小 計	660	550		
合 計	1,410	1,300			

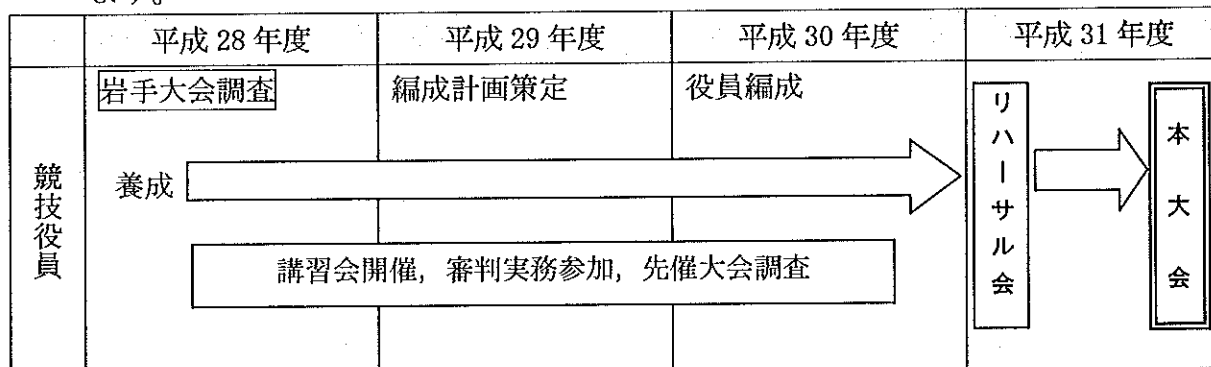
注) 「競技役員」は、競技運営、審判、競技記録等の業務を行います。

「競技補助員」は、競技役員の指示を受けて、競技運営の補助を行います。

イ 競技役員等の養成計画

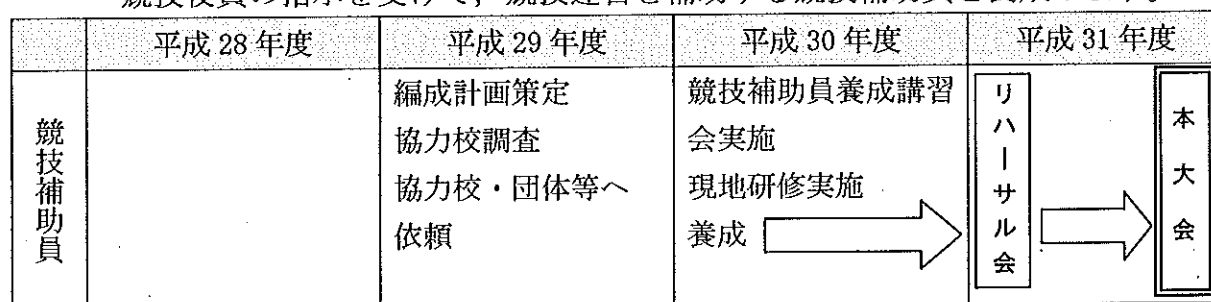
(ア) 競技役員

競技運営を円滑に実施するため、障害者スポーツに対応できる役員を養成します。



(イ) 競技補助員

競技役員の指示を受けて、競技運営を補助する競技補助員を養成します。



(3) 競技運営

ア リハーサル大会

競技運営、審判技術等の向上を図るとともに、大会に対する県民の理解と関心を高めるために、リハーサル大会を実施します。

イ 全国代表者会議・監督会議

大会運営や競技運営を円滑に進めるため、各選手団代表者、監督等を対象に、大会全般の概要や競技規則などに関する会議を開催します。

・期日 平成 31 年 (月日は会期決定後に調整)

ウ 公式練習会

選手が十分に調整して競技に臨めるよう、公式練習日を設けます。

① 期 日 平成 31 年 10 月 (月日は会期決定後に調整)

② 練習会場 原則として本大会の会場とします。

③ 練習時間 あらかじめ競技ごとに指定します。

エ 競技記録、成績の収集及び発表

各競技の記録・成績の収集及び発表は、記録本部を設置し、インターネットなどを活用し、正確かつ迅速に行います。

オ 開始式及び表彰式

開催地市及び競技運営主管団体と協議のうえ、会場の特性や選手のコンディション等に配慮して、必要に応じて簡素に実施します。

カ 競技用具等の整備

競技用具及び運営用器具については、競技運営主管団体と協議し、会場備え付けのもの、「いきいき茨城ゆめ国体」で使用したものを利用するほか、県内施設、各種団体及び民間業者からの借用あるいは購入により、競技運営に支障のないよう整備します。

(4) オープン競技等

障害者スポーツの普及・振興並びに障害に対する理解を深めるため、大会期間中に正式競技以外の競技の実施について、関係団体等と協議し、調整を行います。

(5) ユニバーサルデザインに配慮した会場づくり

各会場は、ユニバーサルデザインに配慮し、年齢、性別、障害のある人もない人もすべての人が使いやすい会場づくりに努めます。

ア 利用しやすい会場づくり

段差解消のためのスロープや、車いすでの利用が可能な広めのトイレ等の仮設物を設置するなど、すべての人が利用しやすい会場づくりに努めます。

イ 分かりやすい情報の提供

会場や会場周辺の多くの人が集まる場所に案内を行う各種ボランティアを配置するとともに、案内看板や電光掲示板を大きな文字やふり仮名を使った標記にするなど、すべての人に分かりやすい情報提供に努めます。

第19回全国障害者スポーツ大会 式典基本方針（案）について

式典は、「いきいき茨城ゆめ国体」と連動し、大会スローガン「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」のもと、障害に対する理解を深め、障害者の社会参加に寄与する大会とするとともに、障害がある人もない人も、すべての人が共に歩み幸せに暮らせる社会を目指す大会とします。

(1) 開・閉会式

ア 参加者に配慮した式典運営

開・閉会式は、できるだけ簡素で効率的にし、十分な競技時間の確保と、参加する選手・役員への負担を軽減し、健康管理に十分配慮するものとします。

イ 式典催事の内容

式典催事は、障害のある人もない人も、大会に参加する全ての人々が一体となって感動と喜びを共有できるものを検討します。

ウ 音楽・演技等の構成

式典音楽・式典演技等は、「いきいき茨城ゆめ国体」を基本として「いきいき茨城ゆめ大会」の特徴を活かした構成を検討します。

エ 荒天時の対応

荒天時の開・閉会式については、規模を縮小して実施します。

オ リハーサルの実施

開・閉会式の円滑な運営を図るため、リハーサルを実施します。

カ 参加者への情報提供

式典に関する情報が、視覚や聴覚に障害のある人などに適切な手段によって提供できるように配慮します。

(2) 炬火

ア 炬火点灯

炬火は、開会式において主会場の炬火台に点火し、大会期間中、選手たちの活躍を見守り続けます。

イ 炬火イベント

全県的な大会気運の高揚と、障害に対する理解を深めるため、「いきいき茨城ゆめ国体」と連携し、炬火を活用したイベントの実施を検討します。

第19回全国障害者スポーツ大会 宿泊基本方針（案）について

大会参加者の宿泊施設の確保と環境整備に努めるとともに、大会参加者及び観客の
医事・衛生に万全を期します。

(1) 宿泊

大会参加者が心身ともに良好な状態で大会に臨めるよう、関係機関・団体等の協力を得て、おもてなしの心をもって快適な宿泊施設の確保と環境整備に努めます。

ア 参加意向調査

宿泊施設ごとの受入数を調整するため、参加意向調査を行い、大会参加者の障害の程度や宿泊数などを把握します。

イ 宿泊施設調査

大会関係者の特性に合った適切な配宿のため、宿舍の客室タイプや設備面を調査します。

ウ 宿泊環境整備

大会参加者が快適に宿泊できるよう、宿泊施設のバリアフリー化について理解を求めるとともに、必要に応じてシャワーチェアや浴槽マットなどの宿泊支援用具を配置するほか、エレベーターに点字シールを設置するなど、宿泊環境の整備に努めます。

エ 宿泊料金の設定

「いきいき茨城ゆめ国体」との連携を図り、関係団体等と協議の上、宿泊料金を設定します。

オ 配宿

大会参加者の障害の程度や会場までの交通、大会スケジュールなどに配慮した配宿に努めます。

カ 接遇講習会

大会参加者へのサービスの向上と真心あふれるおもてなしを実践するため、宿泊業務従事者を対象に、障害に関する接遇講習会を実施します。

キ 食事

大会参加者に提供する食事は、「いきいき茨城ゆめ国体」の献立を準用します。

《宿泊者数（想定）》

選手団	大会関係者
約5,500人	約1,500人
1日最大7,000人	延べ30,000人程度

(2) 医事・衛生

大会参加者及び観客の安全と健康のため、関係機関及び団体等の協力を得て、医療救護や防疫体制の整備に努めるとともに、食品衛生の徹底を図り、会場の清掃や廃棄物の適切な処理を行い、清潔で快適な環境を整えます。

第19回全国障害者スポーツ大会 輸送・交通基本方針（案）について

大会参加者及び観客の安全かつ円滑な輸送を行うよう努めます。

(1) 輸送

大会参加者及び観客の安全かつ円滑な輸送を行うため、関係機関・団体等の協力を得て、道路及び交通状況を十分考慮した輸送体制の整備に努めます。

ア 全国輸送

大会参加者の来県・離県は、自由集合・自由解散としますが、安全かつ円滑な輸送を行うため、関係輸送機関に協力を求めます。

イ 県内輸送

大会参加者については、借上げバスなどにより計画的に輸送を行います。その際は必要に応じて、低床バスや、福祉車両を活用します。

また、観客については、公共交通機関の利用やシャトルバスの運行などにより円滑な輸送に努めます。

ウ 車両及び駐車場

大会参加者及び観客の輸送に必要な車両及び駐車場の確保に努めるとともに、効率的な利用を図ります。

(2) 観光

全国から来県した大会参加者や観客に、茨城県の魅力に触れる機会を提供し、空き時間を利用しての観光や買い物を積極的にサポートするため、関係団体との連携のもと、観光や県産品の情報提供を行い、心のこもったおもてなしにより、多くの出会いと交流を通し、茨城ファンの増加とリピーターの獲得に努めます。

第19回全国障害者スポーツ大会 ボランティア養成基本方針（案）について

県民総参加で大会参加者や観客をもてなす大会運営ボランティアをはじめ、手話や要約筆記などを行う情報支援ボランティア、選手団と行動を共にする選手団サポートボランティアなど多様なボランティアを計画的に養成します。

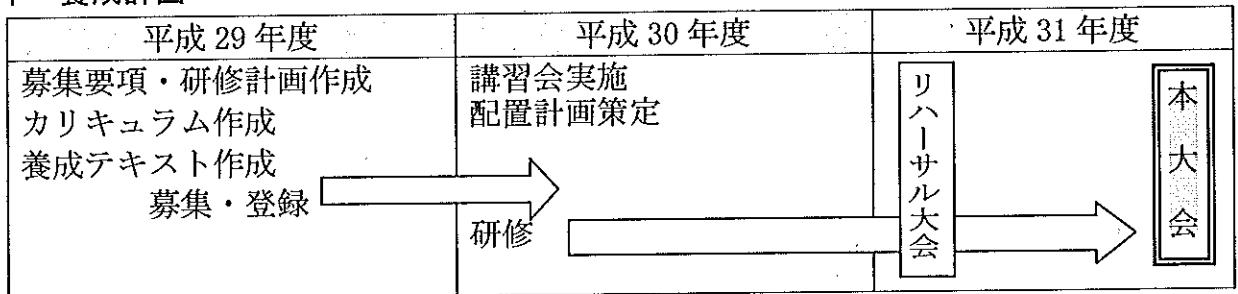
(1) 大会運営ボランティア

県民総参加で大会参加者や観客をおもてなしの心でお迎えするため、「いきいき茨城ゆめ国体」と連携して、大会運営ボランティアを広く一般から募集します。

ア 種別及び内容(想定)

種 別	内 容	人 数
案内・介助	総合案内所などでの案内・誘導・介助	3,500人
会場整理	観客の改札, 案内, 誘導等	
会場美化	飾花の管理, 会場内の清掃等	
会場サービス	弁当, 飲み物の配布等	
式典	開・閉会式の式典補助	
ふれあい広場	ふれあい広場の運営補助等	

イ 養成計画



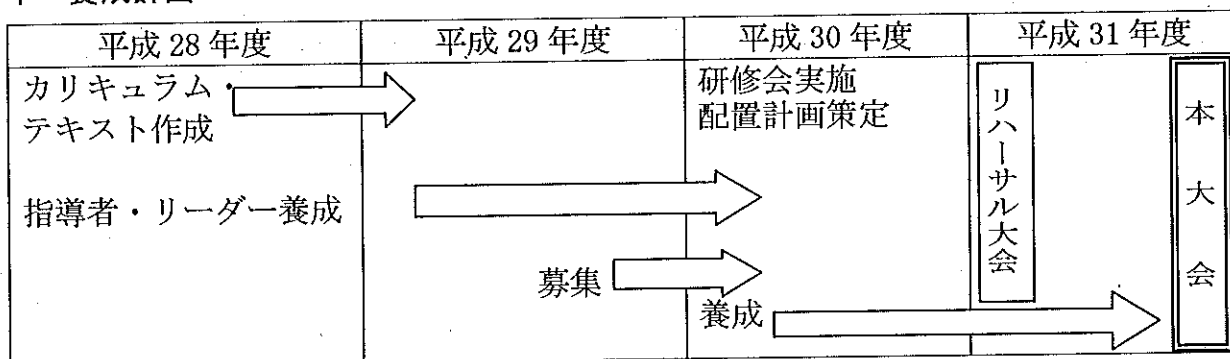
(2) 情報支援ボランティア

聴覚障害のある人への情報保障を図るとともに、すべての人に分かりやすい情報提供を行うため、関係団体等の協力を得ながら、各種情報支援ボランティアを養成します。

ア 種別及び養成に係る協力団体(想定)

種 別	人 数	養成協力団体
手話	300人	一般社団法人茨城県聴覚障害者協会他
要約筆記(手書き)	200人	
要約筆記(パソコン)	100人	
計	600人	

イ 養成計画



(3) 選手団サポートボランティア

大会に参加する選手及び役員への介助・誘導等のサポートを行い、大会運営の円滑化を図るとともに、選手との交流を通して次世代を担う若者が障害のある方への理解を深め、大会後もボランティアとして地域で活躍するきっかけとなるよう、学生等で構成する選手団サポートボランティアを養成します。

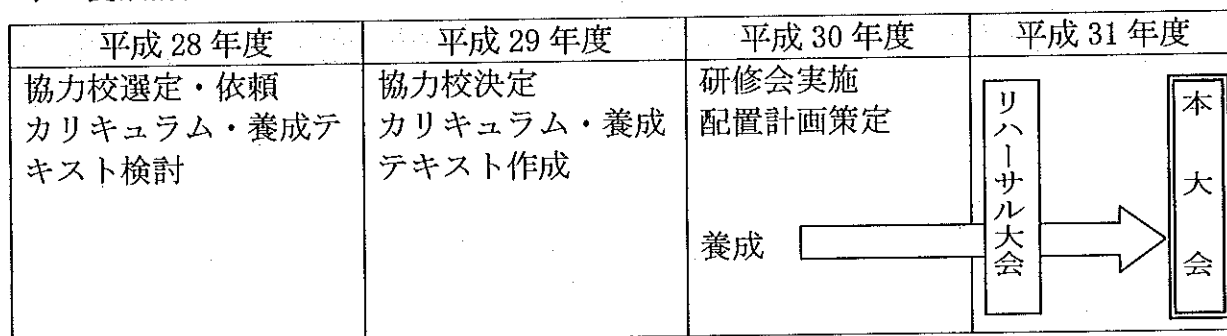
ア 活動内容

選手団の歓送迎・介助・誘導・交流等、来県から離県まで選手団と一緒に行動します。

イ 種別及び養成協力団体(想定)

種別	人数	養成協力団体
選手団サポート	800人	大学・専修学校等

ウ 養成計画



第19回全国障害者スポーツ大会 イメージソング及びダンス(案)について(国体と共通)

(趣旨)

県民一人一人のいきいき茨城ゆめ大会への参加意識を高めるとともに、県内外への本県のイメージアップを図るため、イメージソングと誰でも楽しく参加できるダンスを制作。

1 イメージソング

そして未来へ

- ・学校においては、休み時間のBGM、音楽の授業、運動会等で活用する。
- ・市町村、各競技団体等においては、イベントのBGM等で活用する。

2 ダンス

イメージソングをダンス用に編曲のうえ、ダンスの経験、ダンスの好み、踊る人の世代等の違いを勘案し、複数バージョンのダンスを制作。

○特別支援学校、小中高等学校、保育園、幼稚園等

- ・ダンスの初心者から経験者までをカバーするため、難易度の異なる3バージョンの振付(イージー、スタンダード、エキスパートの各バージョン)を作成し、教育活動を中心に幅広い世代への普及を図る。

○地域イベント等

- ・県内で行われているダンスや踊りの地域イベント等で活用してもらうために、フェスティバルバージョンを作成し、当該イベントを通じた普及を図る。

○高校・大学・社会人のダンスサークル等

- ・いずれかのバージョンをサークル活動のレパートリーとして取り入れてもらう。

協 議 事 項

第19回全国障害者スポーツ大会会期(案)について

大会会期の選定にあたっては、開催基準要綱の「国民体育大会本大会の直後を原則として開催する。」に従い、かつ、多くの県民が参加できるように、先催県と同様、国体直後の土曜日を開会式とすることが適当。(但し、皇室行事を除く。)

〔国体会期(案)に対する大会会期(案)〕

月日	曜日等	皇室行事	国体会期(第1案)		国体会期(第2案)		国体会期(第3案)			
			国体	全スポ	国体	全スポ	国体	全スポ		
9月21日	土									
9月22日	日									
9月23日	月	秋分の日	秋季皇霊祭							
9月24日	火									
9月25日	水									
9月26日	木									
9月27日	金									
9月28日	土									
9月29日	日									
9月30日	月									
10月1日	火									
10月2日	水									
10月3日	木									
10月4日	金									
10月5日	土									
10月6日	日							1		
10月7日	月									
10月8日	火									
10月9日	水									
10月10日	木									
10月11日	金									
10月12日	土							2		
10月13日	日									
10月14日	月	体育の日								
10月15日	火									
10月16日	水									
10月17日	木	神嘗祭								
10月18日	金									
10月19日	土									
10月20日	日	皇后陛下 お誕生日 祝賀会	開催不可							
10月21日	月									
10月22日	火									
10月23日	水									
10月24日	木									
10月25日	金									
10月26日	土									
10月27日	日								2	
10月28日	月									
10月29日	火									
10月30日	水									
10月31日	木									
11月1日	金									
11月2日	土									
11月3日	日	文化の日							2	
11月4日	月	振替休日								
11月5日	火									
11月6日	水									

第19回全国障害者スポーツ大会 オープン競技実施基本方針（案）について

第19回全国障害者スポーツ大会におけるオープン競技は、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会制定）で定めるもののほか、この基本方針により実施する。

1 趣旨

障害者スポーツの一層の普及・振興を図る観点から、いきいき茨城ゆめ大会において、正式競技以外の競技種目をオープン競技として選定する。

なお、オープン競技は、正式競技の開催に支障のない範囲で実施するものとする。

2 募集

広く障害者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められる競技・種目について、県内の関係団体等へ公募のうえ、選定し、実施する。

3 選定基準

オープン競技の選定にあたっては、次の選定基準により決定するものとする。

- (1) 主催団体が、自主運営により競技会を実施できること。
- (2) 県内に出場可能な選手・チームが存在すること。
- (3) 県外の選手・チームが出場できるルールが確立している競技であること。
- (4) 既設の競技施設により実施可能であること。
- (5) 第19回全国障害者スポーツ大会の開催期間内に実施が可能であること。

4 選定スケジュール

- (1) 平成28年7月～ 関係団体等に対し、実施希望調査を実施
- (2) 平成28年9月～ 実施希望団体等との協議・調整
- (3) 平成28年11月～ オープン競技（案）の審議・選定
- (4) 平成29年2月～ 中央主催者（文部科学省・日本障がい者スポーツ協会）と協議のうえ、決定